はじめに

全国家庭科教育研究会が実施したアンケート調査（平成27年度）や国立教育政策研究所が行った学習指導要領実施状況調査（平成25年2・3月実施）の結果、約9割の児童が「家庭科の学習は、ふだんの生活や社会に出て役に立つ」と答えています。家庭科は、子どもたちが社会において自立的に生きる基礎を培うかけがえのない教科です。そのため、衣食住や家族の生活などに関する実践的・体験的な活動や、実生活と関連を図った問題解決的な学習を重視し、家庭生活を大切にする心情を育むとともに、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度を育成することをねらいとしています。

社会の変化に対応して改善された学習指導要領の全面実施5年目の実践課題として、次のことが挙げられています。

- ○　2年間を見通した指導計画の工夫（AとDとの関連、他教科等との関連）
- ○　基礎的・基本的な知識及び技能の明確化（小・中学校の連携）
- ○　学習指導要領実施状況調査を踏まえた指導と評価の改善　※国立教育政策研究所HP参照
- ○　問題解決的な学習や主体的・協働的に学ぶ学習の充実（言語活動の充実、ＩＣＴの活用）
- ○　家庭との連携

また、現行学習指導要領では、「見通しを立てたり、振り返ったりする学習活動」が重視されています。子どもたち自身が「自分は何を学ぶのか」をしっかりと意識し、問題意識をもって自分で考え、話し合い、発表し合うといった活動は、思考力等を養う上でとても効果的です。そして、自分の活動を振り返ることは、自己の成長を実感し、自分の力を伸ばすことにつながります。「見通す・振り返る活動」が学習展開の中に組み入れられているか再度見直しをお願いいたします。

見通す活動
・児童が到達すべき目標を理解し、自分の具体的な課題を設定する。
・課題解決に向けて学習した知識・技能を活用して解決方法を考え、実験・実習等の計画を立てる。

振り返る活動
・学習の過程や結果を振り返り、何を学んだのかや実践したことの成果と課題をまとめ発表したり、次の課題を明確にしたりする。

現在、文部科学大臣の諮問を受け、中央教育審議会において新しい時代にふさわしい学習指導要領等の在り方について議論されており、平成28年度には答申が出される予定です。言語活動の充実をはじめ、現行学習指導要領で充実を図ってきた取組は、次期学習指導要領改訂に向けた諮問文にも盛り込まれており、今後もこれらを重視して取り組んでいくことが大切だと考えます。

各学校では、基礎・基本の定着と活用を図る指導計画の改善をはじめ、「わかる・できる・考える」授業づくり、自己の成長を実感し、子どもが伸びる学習評価などについて研究を進めていることと思います。このような中、愛媛県内各支部から寄せられたすばらしい研究実践を、『小学校家庭科実践集録第52号』としてまとめることができました。本集録に収められた研究実践から様々な工夫を学び、各学校の実態に応じてさらに改善を加えながら、日々の指導に生かしていただきたいと思います。

最後になりましたが、本集録の作成に当たりご尽力いただきました皆様に心より感謝申し上げます。

平成28年2月

愛媛県教育研究協議会　技術・家庭委員会
小学校部会委員長　辻井　芽美子